

高等学校における シラバス活用のポイント

- 効果的な活用をめざして -

栃木県総合教育センター
平成16年3月

ま え が き

平成15年11月に、当センターでは、シラバス作成と学習指導改善の参考資料として、「高等学校におけるシラバス作成のポイント」を発行しました。その続編として、このほど、研究協力校における実践研究の成果と課題を踏まえ、シラバスの活用を推進する具体的な方策をまとめました。また、平成15年11月の参考資料で紹介できなかった教科・科目や新たに内容及び形式を工夫した事例を示しました。

現在、各学校では、基礎・基本の徹底を図るとともに、生徒の主体的・自律的な学習を推進して、これまで以上に、生徒一人一人の能力を十分に伸ばすことをめざした教育を展開しようとしています。シラバスの導入は、学力向上に向けた取組を推進する重要な手だてとして期待が高まっています。シラバスの作成及び活用のねらいを明確にして、実践にあたることは、各教科の授業の質的な向上につながるとともに、保護者や地域の人々が学校の教育目標や教育計画などを一層理解するようになり、学校の説明責任を果たしたり、協力を得るための基盤づくりとなったりします。

このように、シラバスの果たす役割に対する期待がある一方、生徒の利用を促したり、内容及び形式の改善を進めたりする上で、いくつかの課題が指摘されています。それぞれの教科・科目などの担当者が、試行錯誤しながら主体的に課題の解決に向けて努力していくことが必要ですが、学習指導の全体計画や実行計画についてもシラバスに示すなど、学校経営の立場からシラバスを積極的に活用しようとする具体的な取組を推進していくことが大切です。これらの目的を達成するために、多くの事例や具体的な活用の考え方をすることも重要です。本資料が各学校でのシラバスの作成及び活用の推進の一助となることを望みます。

平成16年3月

栃木県総合教育センター所長

豊 田 敏 盟

目 次

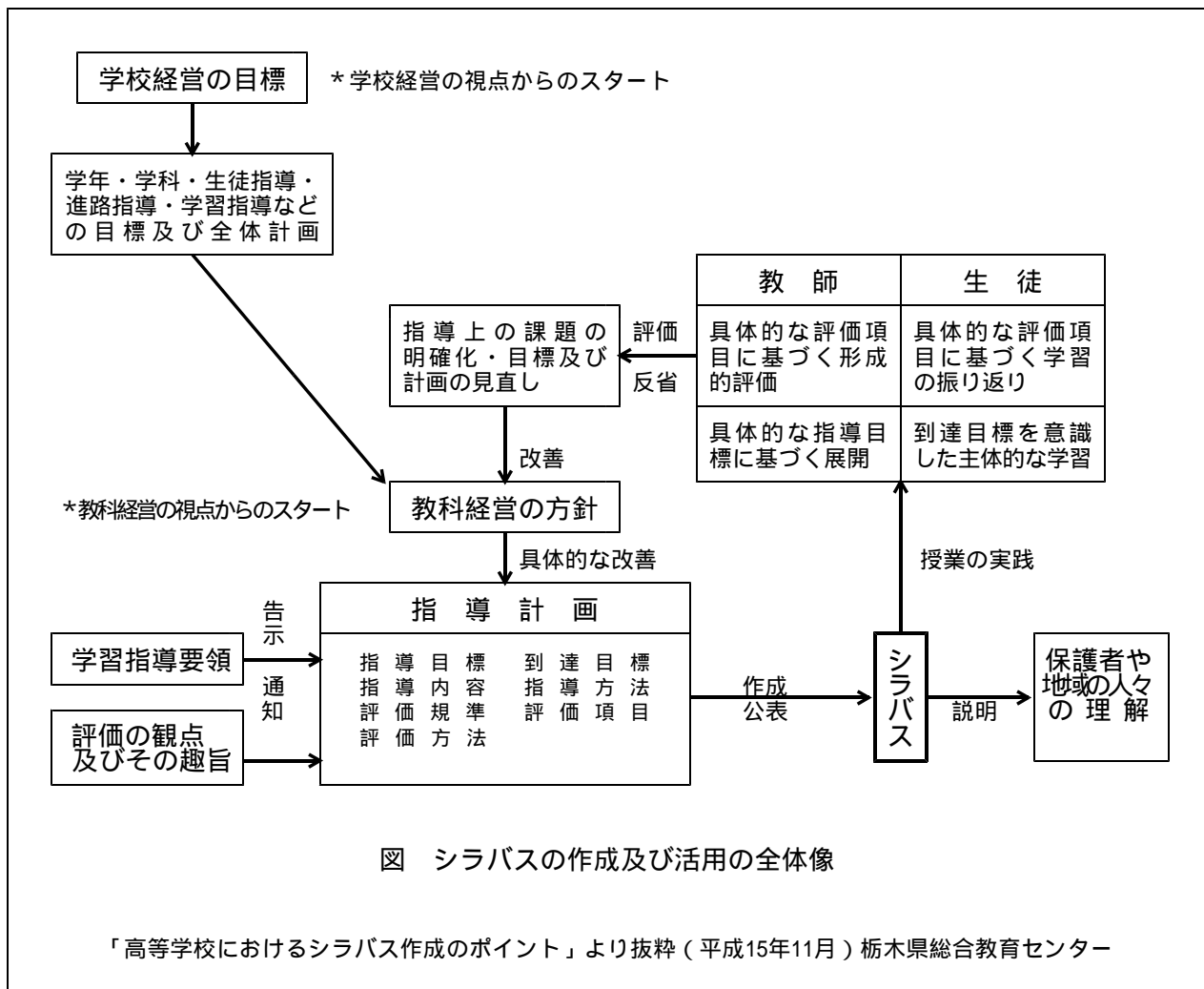
1	はじめに	1
2	シラバスを効果的に活用するための方策	2
3	事例 各教科・科目等のシラバス	
	シラバスの事例の概要と特徴	12
	事例 理科	13
	・履修ガイド《理科》	
	・講座案内《理科》理科基礎、理科総合A	
	・学習計画書「理科基礎」	
	事例 芸術科	16
	・履修ガイド《芸術科》	
	・芸術科「音楽」シラバス	
	・芸術科「美術」シラバス	
	・芸術科「書道」シラバス	
	事例 学校設定科目「科学技術A」	23
	・学校設定科目「科学技術A」シラバス	
	事例 総合的な学習の時間「地域研究」	26
	・総合的な学習の時間「地域研究」シラバス	

1 はじめに

平成15年11月に当センターが作成した「高等学校におけるシラバス作成のポイント」の中で、シラバスの果たす主な役割として次の三つを挙げました。

- (1) 生徒に対して、学習の到達目標を意識させ、主体的な学習を促す。
- (2) 指導目標（あるいは評価規準） 評価の観点、評価方法を明確化し、学習指導の工夫改善に生かす。
- (3) 保護者、地域の人々に対して説明責任を果たし、学校への信頼を高める。

実際にシラバスを導入した学校からは、指導のねらいや方法、評価、授業の進度、教材の扱いについて、今までよりも教師間で共通理解が得られるようになったというような効果が報告されています。しかし、その一方で、実際には生徒はあまり活用していないという声も聞かれます。こうした状況を改善するためには、次の図のように、学校経営と教科経営の両方の視点から、あらためてシラバスの効果的な活用を促すことが大切です。



2 シラバスを効果的に活用するための方策

活用の方策 1

生徒に学習の到達目標を意識させ、主体的な学習を促すためには、シラバスを自主学習の計画や学習の自己評価のための資料と関連付けることが大切です。

シラバスを配付して説明するだけでは、生徒が計画的に学習に取り組むことにはつながりません。シラバスを生徒自身が有効に活用できるようにするためには、シラバスの記載内容が学ぶこととどのように関連しているか、具体的な活用方法を示す必要があります。また、教科担任だけでなく、ホームルーム担任もシラバスを配付するねらいや活用方法について共通理解を図る必要があります。

次の図は、生徒に主体的な学習を促すための各種資料とその役割を模式的に表したものです。

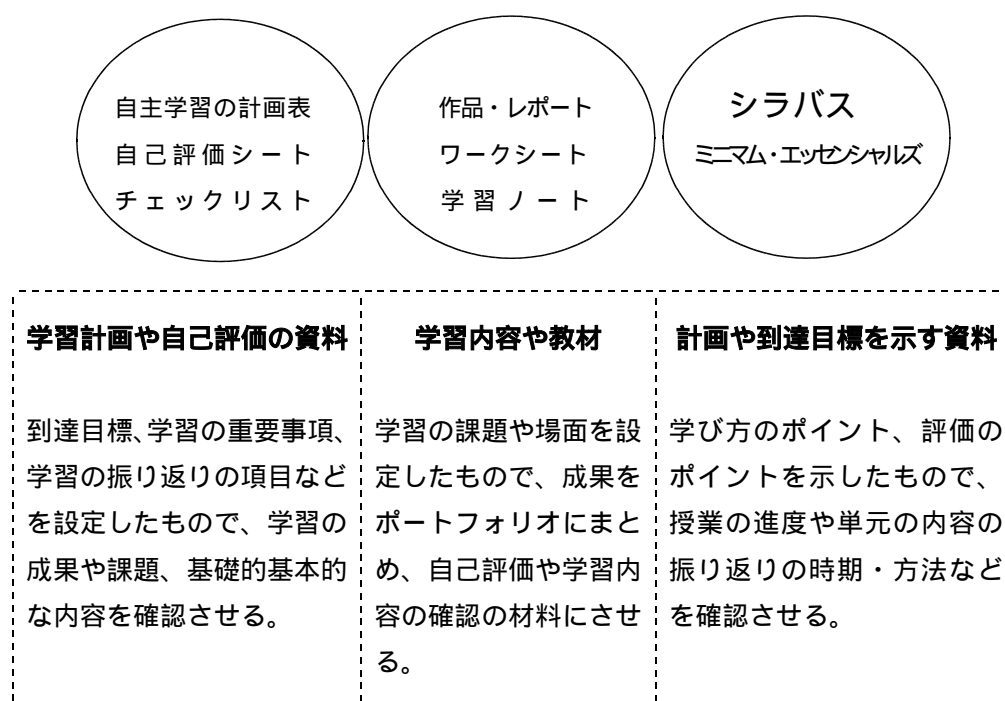


図 生徒に対して主体的な学習を促すための各種資料とその役割

[活用例 1] 学習計画の立案での活用 ホームルーム担任の活用例

生徒がシラバスを十分に活用しなかった理由として、活用方法がわからないということや、必要性を感じないという声が聞かれます。このことから、シラバスの活用に関するガイダンスの方法を工夫する必要があることがうかがえます。

ホームルーム活動においては、「学ぶことの意義の理解」、「主体的な学習態度の確立」、「教科・科目の適切な選択」などのテーマと関連付けて、シラバスを活用することが考えられます。また、学習や進路に関する面談など個別の支援の場面でも、シラバスを示しながら対話を進めるといった利用法も想定できます。このように考えると、シラバスの活用についてホームルーム担任の果たす役割は大きいと言えます。

以下に、生徒にシラバスを参考にして自主学習の計画を作成させるためのワークシートの例を示しました。

学び方ワークシート（自主学習の計画）

高校に入学して、まず、1学期にがんばってみたいと思う教科・科目を3つ選んで、シラバスを参考にしながら、「学習のチャレンジ！ベスト3」を作成しましょう。

（選ぶポイント）

- ・特技や得意分野を伸ばすためにチャレンジ
- ・苦手な分野の克服にチャレンジ
- ・将来の進路実現に向けてチャレンジ
- ・新しい科目にチャレンジ

（シラバスの活用の仕方）

- ・役立つと考えたシラバスの記載事項に、赤ペンで下線~~~~~を引いたり、チェックしたりする。
- ・特に役立つと考えた事項を参考に、「学び方のポイント・努力目標」の欄に記入する。

（記入例）

A・Bの欄に記入する

順位	教科・科目名 達成度チェック	A チャレンジしたいこと 課題・動機	B 学び方のポイント 努力目標・方法
1	オーラルコミュニケーション ----- 5月 7月	中学校の時、外国人の講師の先生との会話が苦手だったので、積極的に話せるようにしたい。	・学習ノートを使って授業の前日に予習、週末に復習。 ・CDを使って、毎日声に出して学ぶ！
2	英語 ----- 5月 7月	英文を読んだり、書いたりすることは得意なので、さらに力をつけたい。	・シラバスに示されている「学習課題」「ワークブックの範囲」「学習のアドバイス」を参考に、授業の前日に予習、週末に復習。 英語 + O C の家庭学習時間の目標は平日1.5時間、休日2時間
3	数学 + A ----- 5月 7月	中学校では、2年生の時学んだ「場合の数」「確率」が苦手であったので、克服したい。大学に進学して経済や企業経営などについて学びたいので、数学の力をつけることは必要であるため。	・シラバスには、1学期の期末テスト終了後（7月）から「場合の数」「確率」の単元の授業が行われると示されていることから、自主学習のガイド役である問題集の活用慣れ、期末テストまでに予習、復習のスタイルを確立しておく。 数学 + A の家庭学習時間の目標は平日1時間、休日2時間。7月の期末テスト前から30分延長。

シ
ラ
バ
ス
を
参
考
に
す
る

(指導のポイント)

- ・達成度チェック(5月 7月)の欄に、記号でチェックする。
例) A: ほぼ達成 B: 達成が不十分 C: 計画の見直しが必要
- ・興味をもっている科目を中心に挙げさせる。
- ・「チャレンジしたいこと」、「学び方のポイント」の欄に、具体的な努力目標や目標達成に向けたプロセスなどを、シラバスの記載内容を参考にして記入させる。
- ・定期テストの前後に、シラバスを参考にさせて記入内容を振り返らせる。
- ・このシートとシラバスをもとに目標の達成状況を把握させ、個人面談の参考資料とする。

英語科「OC」シラバス(抜粋)

- 3 主な教材の紹介 教科書準拠の学習ノート(CD付)
- 4 学び方についてのアドバイス
予習 授業 復習のサイクルを確立しよう。
具体的な方法については担当者の指示や入学時に配付した「学び方の手引き」に従ってください。 **他の資料との関連を明示**
- (1)家庭学習
- ・予習: 単語や熟語を調べておく。(前もってCDを聞いてもよい。)
 - ・復習: 課題をすませ、学習ノートを使ってCDを何度も聞く。
重要な単語や表現は書けるようにする。

英語科「英語」シラバス(抜粋)

月	主な学習項目	学習課題	ワークブック	学習のアドバイス
4	Lesson1 My Friend	友人紹介の文章を通して、これからの高校生活について考える。 基本文型(三つ) 基本時制(現在・過去・未来・進行形) 「あいさつ」の表現	3 文の型(1)	・ <u>Weekly Testはファイルにまとめ、定期テスト前の確認に活用しよう。</u> ・ <u>教科書やワークブックの例文を中心に、</u> 、 <u>、</u> に 取り組もう。

数学科「数学 + A」シラバス(抜粋)

月	学習内容	問題集	学習のアドバイス
7	数学A 第1章 <u>場合の数と確率</u> 第1節 集合と要素の個数 1 集合 2 集合の要素の個数	pp.72-77 1. 2. 3. 4. 5. 6. 10.11. 12.13.	・便箋などを利用して、包含関係をしっかり確認しましょう。 ・ <u>期末テスト後のため、やや学習意欲が低下しがちです。</u> また、苦手と感じる人が増える内容です。予習・復習のペースを崩さないようにしましょう。

* 栃木県立宇都宮清陵高等学校シラバス(平成16年度用)より一部引用。

[活用例 2] 学習の予習・復習での活用

シラバスを学習の予習・復習に活用するためには、シラバスの中に学習内容と関連する問題集の重要問題などを示したり、学習を進める上でのアドバイスを記したりしておくことで自己学習を促すのに効果的です。また、課題テストや単元テストの計画も合わせて記しておくことも計画的な学習を促すことにつながります。

以下の例は、シラバスの中に関連する重要問題の番号、学習のアドバイス、公式・重要事項などを記載したものです。また、シラバスのスペースには限りがあるので、自己評価シートなどをシラバスと関連させて活用させることも効果的と考えられます。

数学科「数学 + A」シラバス（抜粋）

月	学習内容	問題集	学習のアドバイス	備考
1	第2節 正弦定理と余弦定理	pp.55-60	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正弦定理・余弦定理をしっかり覚えましょう。 ・ 問題を解くときは、必ず図をかいて、求める辺や角を確認しましょう。 ・ 空間の問題は難しいですが、図をかいてよくイメージしながら考えることが大切です。 	1/15
	4 正弦定理	198,199,200,		課題テスト
	5 余弦定理	201,202,203,		1/26
	6 正弦定理・余弦定理の応用	204,205,207		単元テスト
	第3節 図形の計量	pp.61-69		
	7 三角形の面積	219,220,221,		
	8 相似な図形の面積比・体積比	228,229,230,		2/2
	9 空間図形の計量	231,237,238,		単元テスト
				239,240
途中省略				
【公式・重要事項】		正弦定理 $\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C} = 2R$ 余弦定理 $a^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos A, \quad b^2 = a^2 + c^2 - 2ac \cos B$ $c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos C$		
三角比の相互関係 $\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta}, \quad \sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1$ $1 + \tan^2 \theta = \frac{1}{\cos^2 \theta}$		以下省略		

* 栃木県立宇都宮清陵高等学校シラバス（平成16年度用）より一部引用。

自己評価シート活用（シラバスと自己評価シートの関連）

さらにきめ細かな学習の振り返りや発展学習を促すためには、シラバスと関連させた自己評価シートを活用すると効果的です。

【自己評価シート作成のポイント】

学習の振り返りをしやすいように、授業で扱った学習の課題に沿って作成する。チェック欄には、授業で扱った考え方や既習事項など、認知面の項目を設定する。授業がよく理解できなかったときに、どこを確認すればよいかを項目ごとに示す。学習内容の定着を図るために、練習する必要がある類題を示す。関心・意欲・態度を育成するために、発展課題や予習課題を示す。

自己評価シートの例

授業で扱った課題を
時系列に示す

授業で扱った考え方や知識など、生
徒に身に付けてほしい具体的な項目

できなかったと
きの復習箇所

学習課題	課題解決に必要な考え方や知識など	できなかったときは ここを確認
<p>【課題 1】 「直角三角形の斜辺の長さ」(中学校復習) AB=400m、AC=200m、 A=90°のときのBCの長さを求める。</p> <p>【課題 2】 「鋭角三角形の1辺の長さをいろいろな解法で解こう」(既習事項の活用) AB=400m、AC=200m A=60°のときのBCの長さを求める。</p>	<p>直角三角形の斜辺は他の2辺が分かれば三平方の定理を使って求められることがわかる。 →</p> <p>BCを三平方の定理を使って求めることができる。</p> <p>[解法 1] →</p> <p>Cから垂線をおろして直角三角形を作れば三平方の定理が使えることがわかる。 BCを三平方の定理を使って求めることができる。</p> <p>[解法 2] →</p> <p>ABとACの辺の比とA=60°ということから、ABCはC=90°の直角三角形であることがわかる。 BCを三角形の辺の比を使って求めることができる。</p>	<p>中学校第3学年 「三平方の定理」 $a^2 + b^2 = c^2$</p> <p>教科書p.118</p> <p>教科書p.98 辺の比が1:2:3の 直角三角形</p>
~~~~~ 途中省略 ~~~~~		
<p>【課題 3】 「解法を一般化して余弦定理を導く」 (本時の中心課題) AB=c、AC=b、A=A を 使ってBC=aを表す。</p>	<p>課題2の解法1を一般化できる。 $\sin^2 A + \cos^2 A = 1$ を使って式の整理ができる。 →</p> <p>余弦定理を用いて、2辺とその間の角から他の1辺を求められることがわかる。 余弦定理はa、b、cについて3通りに表せることがわかる。</p>	<p>教科書p.118 余弦定理の証明 例1 参考書p.140 余弦定理</p>
<p>本日の学習事項の 定着のために</p>	<p>教科書p.54の練習1、練習2 問題集p.72の67~69、p.73のA問題 ----- 問題集p.73のB問題、参考書p.140の187、188(できた人はチャレンジ)</p>	
<p>次時への予習課題</p>	<p>教科書p.119の例題2 参考書p.140の基本例題66</p>	

予習課題

学習の定着を図るために、  
練習する必要がある類題や  
発展課題

## 活用の方策 2

シラバスの作成、活用にあたっては、単元の学習目標や学習のねらい、自校の生徒に必ず身に付けさせたい知識や技能、資質や能力を明確にして、具体的な項目を設定しておくことが大切です。

次の学習単元の例のように、シラバスに学習のねらいを記載する事例が多くみられますが、学習のねらいが単元レベルの目標にとどまり、しかも漠然とした記述になってしまうと、生徒には具体的な学習内容が分かりにくくなってしまうことが多いようです。

### シラバスに示す単元の学習のねらい（例：古典）

学習単元名	単元の学習のねらい
随筆 「中納言殿参り給ひて」 （『枕草子』）	語句の意味、用法、敬語法等を理解し、本文の内容を読み取ります。また、本文に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わい、古文に親しみます。

このような課題に対する方策の一つとして、生徒が最低限身に付けるべき基礎・基本（ミニмум・エッセンシャルズ）を明示することが考えられます。これは、学習指導計画やシラバスに到達目標を設定する際にも活用できます。また、自己評価欄やチェックリストを設けると、生徒に学習の振り返りを促すこともできます。

### ミニмум・エッセンシャルズとは

生徒が最低限身に付けるべき基礎・基本である。

[作成のねらい]

当該高校の生徒として最低限身に付けておくべき基礎学力を明示して、当該高校の生徒の学力保証につなげる。

学習内容と目標の重点化により、生徒にとって学習の指針となる。

学習内容を重点化して示すことにより、主体的な学習を導き、基礎学力を身に付けさせる。

自己評価欄やチェックリストを設けることで、生徒に学習の振り返りを促す。

計画的な学習指導の指針となり、指導方法や評価方法の改善につながる。

複数の指導者間で、学校としての指導事項の共通理解が図られる。

### シラバスに示す単元の学習のねらいとミニмум・エッセンシャルズ（例：古典）

学習単元	単元のミニмум・エッセンシャルズ
随筆 「中納言殿参り給ひて」 （『枕草子』）	敬語法の理解 (1) 尊敬語(為手尊敬)・謙譲語(受け手尊敬)・丁寧語(聞き手尊敬)を理解する。 (2) 二重尊敬(最高敬語)、二方面への敬語を理解する。 (3) 本文中の敬語表現を全て抜き出し、敬語の種類と、誰から誰に対する敬意を表すかを指摘する。 (4) 登場人物の関係を考えながら、語句や敬語表現に注意して、書き手の考えなどをとらえている。 (5) 本文に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。

ミニマム・エッセンシャルズに対応する自己評価（例：古典）

自己評価 敬語法の理解

年 組 番 氏名	A B C D
1 「給ふ」などの尊敬語が理解できた。	A B C D
2 「奉る」などの謙譲語が理解できた。	A B C D
3 「侍り」などの丁寧語が理解できた。	A B C D
4 「～せ給ふ」などの二重尊敬が理解できた。	A B C D
5 「参り給ふ」などの二方面への敬語が理解できた。	A B C D
6 登場人物の関係が理解できた。	A B C D
7 人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができた。	A B C D
本時の感想	

A あてはまる B だいたいあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない

### 活用の方策 3

学習指導の全体計画や実行計画についてもシラバスを用いて保護者や地域の方々にわかりやすく示すことができます。

学力向上をめざした取組の全体計画やその進捗状況などに関する情報については、保護者や地域の方々の関心も高く、これらについて説明責任を果たすことは学校経営上の重要な課題の一つとなっています。このための方策の一つとして、教育計画や学校経営計画などに記載されている内容のうち、学習指導に関わる部分をシラバスとしてまとめて明示することが考えられます。これは学力向上に関する計画（Plan）を保護者や地域の方々に具体的に説明することにとどまらず、実践（Do）、評価（Check）、さらに問題点の見直し（Action）に至る、いわゆるマネジメントサイクルに実効性を持たせるための有効な手だての一つといえます。

#### 学習指導のシラバス

次のページに示した「『学習指導』シラバス」は、文部科学省の学力向上フロンティアハイスクール事業（平成14年度から実施）の構想を参考にして作成したモデルプランです。これは、学力向上をめざした学習指導の全体計画を、保護者、中学校や地域の方々に説明するために役立つと考えられますが、各教科・科目のシラバスの位置付けや役割を明確にして、校内の指導体制を充実させることにもつながるものです。

#### シラバスに関する参考資料

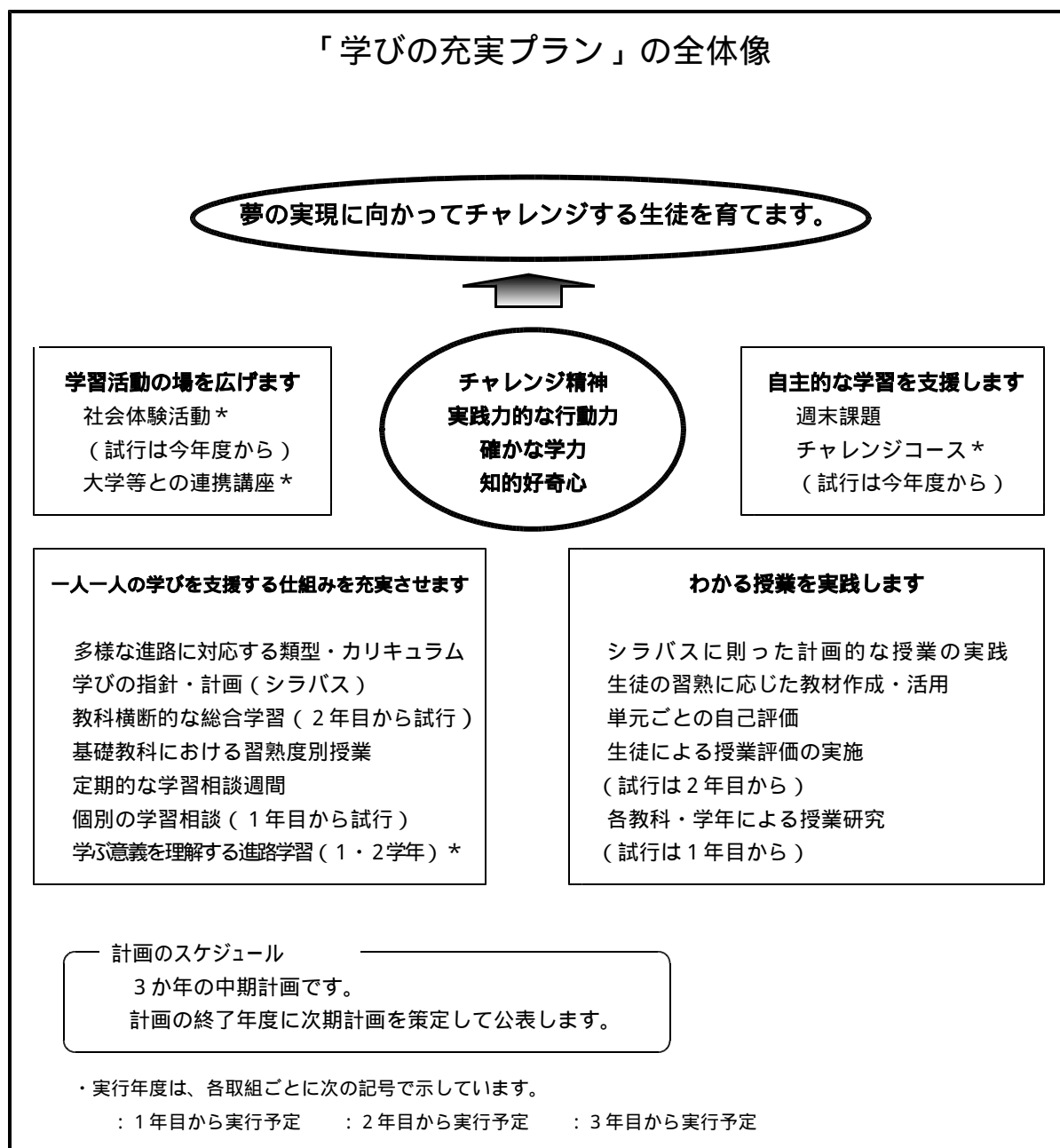
埼玉県総合教育センター シラバス：高等学校：学校経営  
教科・科目、総合的な学習の時間だけでなく、学校経営や学年経営のシラバスも公開しています。

<http://www.center.spec.ed.jp/c/c.html>

広島県内高等学校リンク集  
グランドデザイン、学校経営計画書、シラバスなどをwebページの資料として公開している高等学校があります。

<http://www.pref.hiroshima.jp/kyouiku/hotline/14map/koukoumap/index.html>

# 「学習指導」シラバス



* 次ページに詳しい実行プランを示しています。

## 学びの充実のための6つの実行プラン

### プラン1 学力向上に向けた校内体制の整備

多様な進路に対応する類型（コース）とカリキュラム  
全教科、学年、学習指導（本資料）、生徒指導、進路指導、特別活動のシラバスを整備  
学力向上を推進する校内組織の設置と実行のための手順の明確化  
・ 教員および学外者から構成される学力向上プロジェクト  
・ PDCAサイクルに基づくプランの全体の企画、推進、評価

### プラン2 生徒の学習意欲・学力実態などの把握

学力の現状の多面的な把握  
・ 学習状況調査（学ぶ意義の理解、学習意欲、学習時間、学習習慣、進路意識）  
・ 1、2年の実力テストの改善（シラバス・到達目標をもとに作成・実施）

### プラン3 シラバスの作成・具体的な到達目標の設定

シラバスによる授業の進度の明確化と自己評価シートの活用  
・ 単元ごとの学習内容の確認と学力の定着  
到達目標の設定と到達までのプロセスの明確化  
・ 教科・科目のミニマムエッセンシャルズの設定

### プラン4 指導方法の工夫・改善

一人一人の学力を最大限伸ばすための指導内容・指導方法の工夫改善  
・ 習熟度別指導（英語・数学）  
・ 個別の学習相談（発展的な学習、補充的な学習）  
・ 各教科・学年による授業研究・教材開発（年間2回の公開授業）

### プラン5 総合的な学習の時間の充実

学ぶ意義を理解する進路学習  
自己の生き方を探求する進路学習プログラムの実践（1・2年次）  
・ 自己探求ノートを利用した進路学習の展開  
例：自己理解と職業・産業・社会の理解  
例：社会体験活動を通じたライフプランの作成  
・ 3年間の学びの充実プラン（個別の学習計画表）の作成と活用  
例：学ぶ意義の理解、科目選択、類型選択  
教科横断的な総合学習  
進路選択に応じた課題追究・探究学習の展開（3年次）  
学習の系列 人間と文化・芸術、人間と社会、人間とコミュニケーション、  
人間と科学・技術、人間と自然・環境  
* 5つの系列に分かれ、グループまたは個人でテーマを設定する

### プラン6 学習活動の場を広げる取組の推進

大学・専修学校との連携の推進  
・ 大学・専修学校の教員による土曜日講座の開催（本校主催）  
・ 大学等の公開講座への参加の推進（生徒の自主参加）  
・ 大学等の科目等履修、学校外の学修の単位認定（生徒の自主参加）  
自主的な学習の推進  
・ チャレンジコース（朝、放課後、家庭での自主的学習）  
例：英検2級・3級コース、年間50冊読書コース、職業資格取得コース、  
体づくり運動コース、社会体験活動コース、サイエンスコースなど各自が設定

### 3 事例 各教科・科目等のシラバス

#### シラバスの事例の概要と特徴

以下の事例は、総合教育センターなどの指導主事が、シラバス作成に関する調査研究の協力校やその他の学校現場からの意見を参考に作成しました。

#### 事例 理科

この事例は、総合学科や単位制高校などを想定した形式です。履修ガイドと講座案内は、履修や科目選択についてのガイダンス資料として利用します。また、学習計画書は、各生徒が選択した科目だけを利用するため、やや詳しい授業の内容や進度、提出物や評価について記載しています。これらは、校内LANやインターネットを利用して校内や自宅で自由に閲覧できるようにします。

#### 事例 芸術科

芸術科の履修は、中学校までとは異なり、音楽、美術、書道などの分野から選択します。多くの学校では、3年間を見通した選択を入学時にさせています。生徒は、興味・関心、中学校までの経験や印象などに基づいて科目を選ぶこととなります。このようなことから、学科に関わらず新入生を対象とする科目選択のためのガイドとなる資料が必要となります。理科の事例と同様に、芸術科の履修ガイドと各科目のシラバスを組み合わせ示しました。

なお、実技、鑑賞、作品制作などの一人一人の意欲や感性に働きかける活動が柱となることから、いずれの科目でも自己評価のポイントを明確にすることを心がけました。

#### 事例 学校設定科目「科学技術A」

この事例は、栃木県立宇都宮清陵高等学校が作成したシラバスです。学校を特色付ける科目であることから、授業の活動内容がよくわかるような示し方をしています。学校設定科目のシラバスは、中学校や地域の方々への説明に用いるなど重要な役割を果たします。

#### 事例 総合的な学習の時間「地域研究」

この事例では、「総合的な学習の時間」の実践上の課題である教科との関連や学習を通して培われる資質・能力を示し、生徒の主体的な取組を促すため、自己評価を重視した形式としています。

## 履修ガイド《 理 科 》

### 学習のねらい

- ・ 自然に対する関心や探究心を高めます。
- ・ 観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を高めます
- ・ 自然の事物・現象についての知識を身に付け、理解を深めます。
- ・ 自然の事物・現象を科学的に理解しようとする態度を身に付けます。

### 科目の特色と履修区分

選択必修履修科目 及び から、1科目以上選択します。

科目の特色	選択必修履修科目	選択必修履修科目	選択履修科目
学習の基礎づくりの科目	理科総合 A (2)、理科総合 B (2)		
学習の充実をめざす科目	理科基礎(2)	物理 (2)、化学 (2) 生物 (2)、地学 (2)	
学習の発展をめざす科目			物理 (2)、化学 (2) 生物 (2)、地学 (2)

( ) 内は単位数

### 受講のモデルプラン

〔プラン1〕基礎的な科目を中心に学びます。

幅広く自然科学を学びたい人に適しています。

理科総合 A (2 単位) + 理科総合 B (2 単位)

〔プラン2〕基礎的な科目に加えて、興味・関心を持った科目を選択します。

文科系の大学や、医療系・技術系の専門学校に進学したい人に適しています。

大学入試センター試験にも対応できます。

理科総合 A (2 単位) + 化学 または 物理 (3 単位)

理科総合 B (2 単位) + 生物 または 地学 (3 単位)

〔プラン3〕自然科学に興味・関心の高い人に適しています。

理科系の大学への進学にも対応できます。

理科基礎 (2 単位) +  $\left( \begin{array}{l} \text{化学 (3 単位) + 化学 (3 単位)} \\ \text{物理 (3 単位) + 物理 (3 単位)} \\ \text{生物 (3 単位) + 物理 (3 単位)} \\ \text{地学 (3 単位) + 地学 (3 単位)} \end{array} \right)$

### 受講の条件

- (1) 選択必修履修科目 の3科目から必ず1科目選択します。
- (2) さらに、(1)で選択した以外の選択必修履修科目 及び選択必修履修科目 の中から、必ず1科目選択します。
- (3) の科目は、同じ領域の の科目を履修してからでなければ選択できません。
- (4) 各自の進路希望や理解を深めたいレベルに応じて、「学習の基礎づくりのための科目」を選択するか、あるいは「学習の充実のための科目」を選択するか決めてください。



## 《 理 科 》 理科基礎

講座コード	履修区分	単位数	人数	難易度	開設形態
050501	必 <input checked="" type="checkbox"/> 選 <input type="checkbox"/> 選 択	2	30		前期 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年
ねらい 特色 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験に興味・関心があり、自然科学の調べ方（探究の仕方）について理解を深めたいと考えている人に適した科目です。</li> <li>・理科系の大学、医療系・工業系などの専門学校の進学希望者対象。</li> <li>・2年次、3年次の生徒を対象としています。</li> </ul>				
受講条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理、化学、生物、地学のいずれかを並行して履修している者。</li> <li>・理科総合A、Bの両方を履修した者。</li> </ul>				
教 材	「理科基礎」( ) 社) 科学史資料集、理科基礎ワークシート集（本校自作教材）				
学習内容	(1) 科学の始まりと人間生活とのかかわりはどのようなものであったか、また、どのように自然を探究する方法が確立していったかなどについて学習します。 (2) 物理、化学、生物、地学などの各領域で、近代から現代に至る科学史上重要な研究の進め方や成果をについて学習します。 (3) 現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活とのかかわりについて、各自テーマを設定し考察します。				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験、演習を中心に進めます。</li> <li>・科学的な見方や考え方、探究方法を重視します。</li> <li>・考察したり、レポートをまとめたりする活動を行います。</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容のまとめりごとに確認テストを行います。（年間5回）</li> <li>・前期と後期の終わりに定期テストがあります。</li> <li>・ワークシート、レポート提出があります。</li> <li>・学習の取組状況や学習の振り返りを、自己評価シートにより行います。</li> </ul>				

## 《 理 科 》 理科総合A

講座コード	履修区分	単位数	人数	難易度	開設形態
050502	必 <input checked="" type="checkbox"/> 選 <input type="checkbox"/> 選 択	2	30		<input checked="" type="checkbox"/> 前期 後期 通年
ねらい 特色 対 象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学の基礎的な内容を幅広く学びたい人に適しています。</li> <li>・高校で理科を学ぶ基礎をしっかりと身に付ける科目です。</li> </ul>				
受講条件	特に条件はありません。				
教 材	「高等学校 理科総合A ( ) 社」				
学習内容	観察、実験などを通して、エネルギーと物質の成り立ちについて学びます。また、人間と自然とのかかわりについても科学的に考察します。  (1) 自然の探究：自然の見方、探究の仕方 (2) 資源・エネルギーと人間生活：資源の開発と利用、いろいろなエネルギー（仕事と熱、エネルギーの変換と保存） (3) 物質と人間生活：物質の構成と変化（物質の構成単位、物質の変化） 物質の利用（日常生活と物質、生物のつくる物質） (4) 科学技術の進歩と人間生活				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、実験、演習を通して、科学的な見方や考え方、探究方法を身に付けます。</li> <li>・基礎的な知識をワークシートにまとめ、理解を深めます。</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容のまとめりごとに確認テストを行います。（年間5回）</li> <li>・前期と後期の終わりに定期テストがあります。</li> <li>・ワークシートの提出があります。</li> <li>・学習の取組状況や学習の振り返りを、自己評価シートにより行います。</li> </ul>				

## 学習計画書 理科「理科基礎」

《2単位 通年》

<p><b>【学習のねらい】</b>                  科学と人間生活とのかかわり、自然の探究・解明や科学の発展の過程について、観察、実験などを通して理解する。                  科学に対する興味関心をもつとともに、科学的な見方や考え方を身に付ける。</p>					
<p><b>【教科書・副教材】</b>                  ・「理科基礎」( )                  ・科学史資料集(本校自作教材)                  ・理科基礎ワークシート集(本校自作教材)</p>					
期	月	主 な 学 習 内 容	学 習 の 到 達 目 標	提 出 物 ・ 自 己 評 価 シ ー ト 等	
前 期	4	(1) 科学の始まり ・ 道具や火の活用 ・ 自然の観察(観察) ・ 規則性や法則性の発見(実験・演習)	・ 科学の始まりと人間生活とのかかわりについて具体的な事例を取り上げ、どのように自然を探究する方法が確立していったか理解する。	ワークシート 、 確認テスト1 自己評価シート1	前 期 試 験 範 囲
	5				
	6	(2) 自然の探究と科学の発展 ア 物質の成り立ち ・ 原子、分子の探究(実験・演習)	・ 自然の見方を大きく転換し、展開させた事例について理解する。	ワークシート 、 確認テスト2 自己評価シート2 ワークシート	
	7				
後 期	9	イ 生命を探る ・ 細胞の発見と細胞説(観察・実験)	・ 近代科学史上、重要な研究の成果について理解する。 (化学、生物、物理、地学から一つずつ)	確認テスト3 自己評価シート3 ワークシート	
	10	ウ エネルギーの考え方 ・ エネルギーの考え方の形成 (実験・演習)			
	11	エ 宇宙・地球を探る ・ 天動説と地動説(演習)	・ これまで理科の学習で学んだことをもとに、現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活とのかかわりについて、各自テーマを設定し考察する。	確認テスト4 自己評価シート4 ワークシート	
	12				
期	1	(3) 科学の課題とこれからの人間生活 (課題追究)		ワークシート  レポート提出 研究発表会の相互評価シート( / ) 自己評価シート6	
	2				
	3				
<b>定期試験の出題方針</b>		(1)、(2)の内容については、ワークシートを中心に出題する。 (3)については、200字程度の論述問題を20点の配点で出題する。			
<b>評価について</b>		授業の取組状況、ワークシートの提出状況、確認テスト、定期試験の得点、レポートの内容、研究発表会の成果を総合的に評価する。 自己評価シートについて、教師がコメントを記入し返却する。			

* 提出物・自己評価シートなどのチェック欄( )は、教科担当者へ提出する際に利用してください。

## 履修ガイド《 芸術科 》

本校の芸術科の科目の履修順序および履修上の注意点を示します。各科目の詳しい内容は、シラバスを参照してください。

音楽（ 、 、 ） 美術（ 、 、 ） 書道（ 、 、 ）があります。

1年に1科目のみ履修できます。

音楽 、美術 、書道 （各2単位）の中から、必ず1科目以上選択し履修しなければなりません。

各科目の を2単位以上習得後、同じ科目の 、またはその他の科目の を選択することができます。

、 の科目を習得した者は、同じ種類の科目の を選択することができます。 、 は専門的な知識や技能を身に付けることを目指しています。担任や教科担任、あるいは進路相談担当の先生と面談して、自分の適性や将来の希望に合った科目を選んでください

**履修パターン1** 音楽 、美術 、書道 の中から1科目だけ選択する。

**履修パターン2** 同じ科目の と を選択する。  
基礎的な知識や技能を確実に身に付けたい。

（例） 選択必修 選択

音楽	音楽	（美術、書道も同様）
----	----	------------

**履修パターン3** 2つ以上の科目から を選択する。  
複数の科目に興味・関心がある。

（例） 選択必修 選択

音楽	美術
----	----

**履修パターン4** 専門的な知識や技能を身に付けたい。  
芸術系（教育系を含む）の大学、専門学校を希望している。

（例） 選択必修 選択 選択

音楽	音楽	音楽
美術	美術	美術
書道	書道	書道

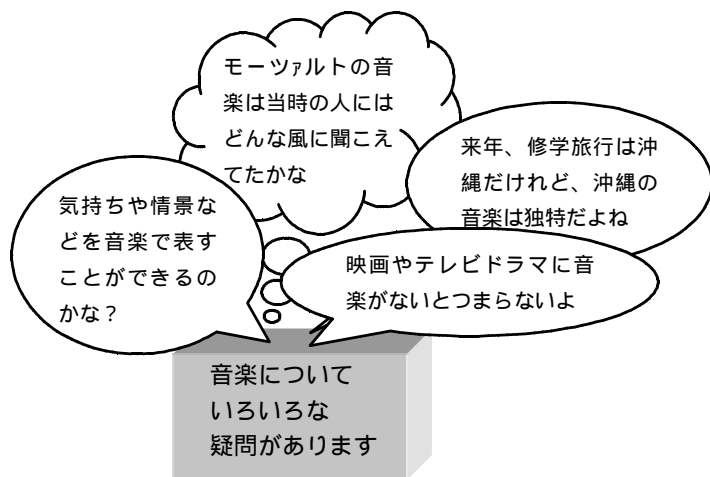
* 進路によっては、 を選択せず、別な種類の を選択することも可能です。

## 芸術科「音楽」シラバス

《 2単位 通年 》

私たちのまわりには、さまざまな音楽があふれています。みなさんは、音楽とどのようなつきあい方をしていますか？「音楽は音を楽しむもので、学ぶものではない」ということばを聞くことがあります。楽しく歌い、楽しく聞けばそれでよいというものです。確かに、これは音楽の楽しみ方のひとつです。しかし、音楽が単なる気晴らしや、感覚的な楽しみを超えたより深い世界をもっていたり、長い伝統の上に培われた様々な文化が蓄積されたものであることに気付いたとき、音楽の楽しさは、あなたの心の中でもっと広がり、より大きなものとなるでしょう。音楽の授業は、そのためのお伝いをします。さあ、もっと音楽と向き合みましょう。

<p><b>学習のねらい</b></p>	<p>様々な音楽活動に積極的に取り組もうとする気持ちを高め、音楽を愛する気持ちをさらに育てます。</p> <p>音楽のよさや美しさを感じ取る感性を高めます。</p> <p>自分にしかできない音楽の表現ができるような技能を身に付けます。</p> <p>世界の諸民族の音楽など様々なジャンルの音楽に触れ、その音楽に特有の雰囲気や味わいなどを感じ取る能力を身に付けます。</p>
<p><b>教科書副教材</b></p>	<p>新 高校生の音楽（音楽之友社）</p> <p>アルトリコーダー（中学校で使ったものを利用してかまいません。）五線紙ノート</p>



### 主な学習内容

表現すること

**歌唱** 小・中学校時代口ずさんだ歌からはじめます。

**器楽** リコーダー、ギター、キーボードに取り組みます。

**創作** 器楽で学んだキーボードを用いてメロディー創作に取り組みます。

鑑賞すること

ヨーロッパを中心に発展した西洋音楽だけでなく、日本の伝統音楽や世界の諸民族の音楽にもふれます。

<p><b>授業で守ってほしいこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽器や楽譜は音楽を表現したり、鑑賞したりする活動の一部です。大切に扱いましょう。</li> <li>・ 音楽を表現する際には、専門的な知識や技能が必要なことがあります。自分で解決できない疑問点や演奏の方法でわからないことなどは、積極的に質問しましょう。</li> <li>・ 鑑賞や表現をするには、雑音のない静かな空間が大切です。静かな空間があつてこそ、自分の音、友人の音、鑑賞曲などに集中することができます。一つ一つの音と静寂を大切にすることを身に付けましょう。</li> </ul>
<p><b>自己評価のポイント</b> *それぞれの題材や活動のまとめりに評価シートを用いて学習を振り返るためのチェック項目です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ さまざまなジャンルの音楽に対して興味・関心が高まりましたか。</li> <li>・ 意欲的に音楽を表現したり、集中して鑑賞に取り組んだりしましたか。</li> <li>・ 楽曲・音楽ジャンルの特徴をとらえられましたか。</li> <li>・ 音楽の歴史やその背景となる民族や文化などを理解し楽曲を聴き取っているか。</li> <li>・ 歌唱や器楽の授業では、積極的に表現したり、友人と協調したりしましたか。</li> <li>・ 演奏上の課題に直面したとき、解決方法を工夫できましたか。</li> <li>・ 創作において、自分なりに工夫できましたか。</li> <li>・ 音楽の技能について身に付けられましたか。</li> </ul> <p>(技能の具体例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔 楽曲から感じ取ったイメージを自分なりに工夫し表現する。〕</li> <li>〔 楽譜に示された記号や標語が示している曲想を感じ取って表現する。〕</li> <li>〔 演奏法、楽器の特徴などを理解し、鑑賞教材を聴き取っている。〕</li> </ul>

学習計画及び評価方法（前期）

学 期 月	題材・主な活動と学習のねらい		指導上の留意点		
	表現すること（歌唱 器楽 創作）	鑑賞すること	課題・提出物		
前 期	<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスをもとに、授業の進め方を確認します。</li> <li>・「校歌」の歌詞やメロディーに慣れます。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現すること」「鑑賞すること」を並行して進めます。</li> <li>自己評価シート</li> <li>・音楽についての興味・関心、経験</li> <li>自己評価シート</li> <li>・歌に対する興味、関心</li> <li>・発声の基本的な方法についての知識</li> <li>・グループごとの演奏会（相互評価）</li> <li>自己評価シート</li> <li>・ポピュラー音楽に対する興味、関心</li> <li>・ポピュラー音楽の歴史やメディアとの関わりについての知識</li> <li>自己評価シート</li> <li>・器楽に対する興味、関心</li> <li>・基本的な演奏法の工夫や知識</li> <li>・グループごとの演奏会（相互評価）</li> <li>自己評価シート</li> <li>・歌や器楽に対する興味、関心</li> <li>・音楽に合った演奏法の工夫や知識</li> <li>・クラス全体の演奏会（相互評価）</li> <li>自己評価シート</li> <li>・ミュージカルに対する興味、関心</li> <li>・日本の伝統音楽に対する興味、関心</li> <li>・ミュージカルの歴史や物語と音楽との関わりについての知識</li> <li>・日本の伝統音楽の特徴についての知識</li> </ul>		
	4	<p>声で表現しよう【歌唱】</p> <p>[青春を歌う 9曲][季節を歌う 5曲]のから、生徒の希望で1曲ずつ選び歌う。</p> <p><b>学習のねらい1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出すことに慣れ、歌うことの楽しさを実感します。</li> <li>・発声の基本的な方法を身に付けます。</li> <li>母音唱法、声の支え、レガート唱法等</li> </ul>		<p>ポピュラー音楽を鑑賞しよう。</p> <p>「日本や世界のポピュラー音楽</p> <p><b>学習のねらい2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な日本のポピュラー音楽に関心を持ち、リズムや音階の特徴を理解し、音楽表現の楽しさを味わいます。</li> <li>・19世紀後半からのアメリカ起源のポピュラー音楽の特徴とその歴史、日本のポピュラー音楽への影響を理解します。</li> <li>・マスメディアの発達とポピュラー音楽の発展の関わりを理解します。</li> </ul>	
	5	<p>リコーダーで表現しよう【器楽】</p> <p>「愛のあいさつ」 「アニメ・ソング・メドレー」</p> <p><b>学習のねらい3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な奏法を身に付けます。</li> <li>楽器の扱い方、演奏姿勢、呼吸法、指づかい、タンギングなど</li> <li>・リコーダーが一般的な楽器として使われるようになってきた歴史を理解します。</li> <li>・楽譜について基本的事項を確認します。</li> </ul>		<p>ミュージカルの音楽を鑑賞しよう。</p> <p>「キャッツ」</p> <p><b>学習のねらい4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の展開を理解し、音楽表現の美しさなどを味わいます。</li> </ul>	
	6	<p>ミュージカルや映画音楽のメロディーを声や楽器で表現しよう。</p> <p>「シャル・ウィ・ダンス」、「Tonight」、「星に願いを」などからグループごとに選択。</p> <p><b>学習のねらい5</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な旋律や気に入った旋律を、物語の場面を想像しながら、歌ったり、リコーダーで演奏します。</li> </ul>		<p>日本の伝統音楽を鑑賞しよう。</p> <p>長唄「勧進帳」、箏曲「みだれ」</p> <p><b>学習のねらい6</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の伝統音楽の特徴や生活との関わりを理解し、音楽表現の美しさやおもしろさを味わいます。</li> <li>・日本の伝統音楽に用いられる楽器の特徴や奏法を理解する。</li> </ul>	
	7	<p>民謡や唱歌などの日本の歌のメロディーを声や楽器で表現しよう。</p> <p>「浜辺の歌」、「夏の思い出」、「南部牛追歌」 「ていんさぐぬ花」</p> <p><b>学習のねらい5</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歌のもつ特徴を生かした歌い方や演奏法を工夫し表現します。</li> </ul>			
	8				
	9				
	10				
	<p>【課題・提出物等、テスト】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己評価シートには、アンケート項目のほか、演奏の評価票、知識の確認テスト、鑑賞のレポートの形式があります。から の題材や活動のまとめりに提出します。それらに教師がアドバイスを記入し返却します。</li> <li>2 演奏会の演奏については、自己評価（相互評価を含む）を行うだけでなく、教師の評価票も渡します。</li> <li>3 定期テストでは、教科書の内容や自己評価シートのまとめの内容について、どの程度知識を身に付け、理解しているか評価します。</li> </ol>				
	<p>【評価方法】</p> <p>自己評価シートの確認テスト、鑑賞レポートの記述、演奏会の演奏に対する教師の評価票、定期テスト、さらに授業に対する参加意欲を総合的に評価します。</p>				

# 芸術科「美術」シラバス

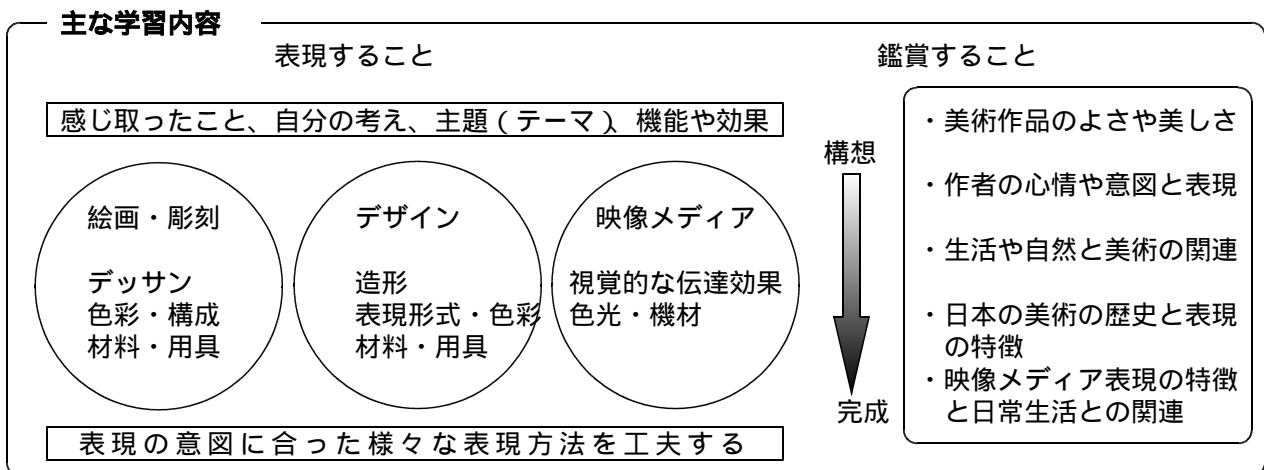
《 2単位 通年 》

美術とは、目に見え、手に感じられる形としてなにか美しいものをつくりだすことです。この表現方法には、絵画や彫刻、デザインなどの長い歴史のあるものだけでなく、現代になって急速に進歩した映像メディアやコンピュータなどを駆使したものもあります。

みなさんの中にも、このような新しい表現方法に対する興味・関心があり、ライフスタイルに生かしたいとか、将来の進路につなげたいとか考えている人がいると思います。美術では、みなさんのこうした思いを尊重しながら、幅広い美術の表現方法について、作品制作や鑑賞を通じて学びます。

一年間学んでいく中で、美しさ、人間の喜びや悲しみを形・色・材料を通して表現する活動は、人類の歴史とともに続いている大切な営みであることに気づいてくれると思います。「絵画や彫刻なんて古いもので興味がない」、「映像やコンピュータ・シミュレーションを仕事にしたいから、もっとその領域を学びたい」と思う人たちも、素直な心でこの科目を選択し、授業に臨んでください。

<p><b>学習のねらい</b></p>	<p>美術の表現や鑑賞の基礎を学び、さまざまな創造活動に必要な技能を高めます。 自分のよさを発見し、美しさを感じ取る感性を高め、表現する楽しさや作品の完成の喜びを味わいます。 表現及び鑑賞における幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心の大切さを実感します。</p>
<p><b>教科書副教材</b></p>	<p>高校美術1（日本文教出版） スケッチブック、水彩画用具（中学校で使ったものを利用してかまいません。） それぞれの題材や活動に必要な材料は、半期ごとに購入してもらいます。</p>



<p><b>授業で守ってほしいこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鑑賞には落ち着いた雰囲気が必要です。授業はチャイムと同時に始めますので、教材、用具を準備し、着席をしてはじめられるようにしてください。</li> <li>・ さまざまな用具を使うため、安全にも配慮し、授業中は集中して取り組んでください。</li> <li>・ 作業に適した服装は、各自で用意してください。</li> </ul>
<p><b>自己評価のポイント</b> *それぞれの題材や活動のまとめりにごとに評価シートを用いて学習をふりかえるためのチェック項目です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材や活動に対して関心が高まったり、意欲的をもって取り組めたか。</li> <li>・ 美しさを受け止める感覚（感性）を生かして、表現活動に取り組み、作品制作の過程を通して感じる喜びや楽しさを味わおうとしたか。</li> <li>・ 感性や想像力をはたらかせて、自然や身の回りの造形、美術作品などのよさや美しさを感じ取ることができたか。</li> <li>・ 自分の表現意図に合った方法を、工夫したり見通しを持ったりできたか。</li> <li>・ 創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けられたか。</li> <li>・ 美術作品を鑑賞するポイントを理解し、それらのよさや美しさを味わうことができ、自分の考えを述べることができるか。</li> <li>・ 美術について、作者、生活や自然との関連、日本の美術の歴史などを理解することができたか。</li> </ul>

## 《前期》

時間領域	題材・テーマ [教科書]	学習内容・ねらい	理解のためのポイント	提出物 作品名	自己評価の 記述欄
1	オリエンテーション [p. 2- 5]	・ 学習計画を把握したり、授業にのぞむ心構えを理解する。	制作のねらい、予定、準備するものを確認する。自己評価の意義や方法を確認する。	プリント	
2 ・ 5 表現	絵画・彫刻 1生き生きと描く [p. 6- 7]	・ 動植物を生命感が表せるようにスケッチし、水彩色鉛筆を用いて作品を完成させる。	制作前の印象や制作過程で発見したことをメモして、制作に反映させる。	作品票	
6 ・ 8 鑑賞	絵画・彫刻 6 屏風画にみる花 [p.16-17] 9 アートは地球をつなぐ [p.18-19]	・ 自然の美を表現した屏風画などの伝統的な日本画を、これまで自分の見てきた絵画と比べながら鑑賞する。 ・ 日本の浮世絵がヨーロッパの作風に与えた影響に注目し、西洋絵画の変化を考えながら作品を鑑賞する	日本画の伝統的な表現方法や画材、モチーフの特徴を確認し、それを生かすための画材の効果を考える。 西洋絵画と日本の浮世絵の違いに着目し、西洋の芸術に与えた影響を実感する。	プリント  プリント	
9 ・ 15 鑑賞	絵画・彫刻 9 楽しい時間 [p.22-23] 10 心の中の情景 [p.24-25] 11 抽象絵画 [p.26-27]	・ 絵の中に込められた楽しさの要素を考え、作者の心情をくみとりながら作品を鑑賞する。 ・ 絵から受けるイメージを自分の体験や心の動きと関連させ、感覚的なとらえ方でまとめる。 ・ 絵から受けるイメージを生徒同士出し合っってディスカッションを通して、題名と関連させたり、他の作品と比較しながら、自らの考えを深める。	絵画の多様な表現方法の可能性を実感する。作品と自分の体験をまとめる。 美術館で実際に作品を鑑賞し、特徴や感想をまとめる。	プリント  鑑賞 レポート	
16 ・ 23 表現	絵画・彫刻 12 銅版画の表現 [p.28-29]	・ ドライポイントの技法の効果が生かせるようなモチーフを選び、魅力あふれる作品を完成させる。	版画の技法に着目し、その技法と効果について理解を深め、自分の表現に生かせるようにする。	作品票	
24 ・ 31 表現	絵画・彫刻 14 手のぬくもりを感じながら [p.32-33]	・ 塑像の技法を習得しながら、人間のもつ美しさを表現できるように頭像を完成させる。	塑像の技法に慣れ、表情豊かで人間のもつ美しさがよくあらわれた作品に仕上げる。	作品票	
32 ・ 35 鑑賞	絵画・彫刻 16 日本の木彫 [p.36-37] 17 動物彫刻 [p.37-38]	・ 西洋の作品と比較したり、自分の身のまわりの玩具やき木で作られた工芸品等との関連を考えながら、仏像など日本の伝統的な木彫の作品を鑑賞する。 ・ 素材の違いを比較したり、作者の発想を考えたりして、身近な動物を題材にした彫刻の作品を鑑賞する。	作者の発想や用途、地域性の違いを考えながら作品を鑑賞するとともに、作品に込められた作者の優しいまなざしや情熱、精神などを感知取る。	プリント	

# 芸術科「書道」シラバス

《 2単位 通年 》

豊かな心の教育が必要とされている今、高校生の芸術・文化への理解は、より注目されるようになってきました。「書」は、数千年の歴史を背景に、東洋的な芸術として、日本だけでなく中国や朝鮮などの漢字文化圏において発展してきました。文字そのものは情報伝達の記号ですが、そこにさまざまな美の要素が盛り込まれて芸術としての書が成立します。筆者の感性と技術によって書的美しさが生まれることを、表現と鑑賞の活動を通じて学びましょう。

書道 の学習をとおして、生涯にわたり書を愛好する心をはぐくみ、感性を豊かにしましょう。

## 主な学習内容

### 表現すること

「書の古典」をとおして基礎的な技法を学ぶとともに、“書く”目的や用途によって、いろいろな形式や表現方法をを工します。主な学習は、次の三つです。

#### 漢字仮名交じりの書

漢字仮名交じりの詩歌や文章・語句などを書いた「書」をいいます。日常的な表記を用いるので、漢字と仮名の調和を図りましょう。

#### 漢字の書

中国や日本の漢字を書いた「書」で、漢詩や漢文、または短い語句や一字だけの場合もあります。古典の用筆・運筆や字形に着目しながら、さまざまな表現方法を学びましょう。

#### 仮名の書

平安時代の仮名の「書」の伝統をふまえて、日本独自の仮名の美を学び、細めで明るく流れるような律動感のある線や全体の構成を学びましょう。

### 鑑賞すること

次のような点に注目しながらさまざまな作品を鑑賞します。

### キーワード

日常生活と書のかかわり      書的美しさと表現効果      日本及び中国等の書の文化

<p><b>授業で守ってほしいこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書は精神性が重視される芸術ですので、書く者の心が端的に表れます。表現の活動は、集中して取り組むことが求められます。</li> <li>・鑑賞には落ち着いた雰囲気が必要です。授業はチャイムと同時に始めますので、教材、用具を準備し、着席をしてはじめられるようにしてください。</li> </ul>
<p><b>自己評価のポイント</b> *それぞれの題材や活動のまとめごとに評価シートを用いて学習をふりかえるためのチェック項目です。</p>	<p>1時間の中での進歩、題材をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩を自覚しながら取り組んでください。 自己評価シートを用いて、学習のまとめごとに学習を振り返ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典に基づく基本的な用筆・運筆などの技能を身に付けられたか。</li> <li>・題材や活動に対して関心が高まったり、意欲的に取り組めたか。</li> <li>・感性や想像力をはたらかせて、書の作品のよさや美しさを感じ取ることができたか。</li> <li>・自分の表現意図に合った方法を得るため、用具・用材や表現形式を工夫できたか。</li> <li>・作品を鑑賞するポイントを理解し、自分の考えを述べることができるか。</li> <li>・日本及び中国等の書の文化や歴史などを理解することができたか。</li> </ul>



## 学習計画 前期

学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	提出物・自己評価
1 書の美を求めて [ pp. 4- 9 ]  書の分野 古典とその臨書 用具 執筆法・用筆法	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実用の立場を重視する小学校や中学校の国語科の書写と、これから学んでいく芸術科の書道の違いを確認します。</li> <li>・書の分野、古典とその臨書、用具、執筆法</li> <li>・用筆法について基礎的な知識を身に付けます。</li> </ul> <p>「臨書」とは、古典を手本として書くことで、書の基本となるものです。</p>	自己評価シート  <ul style="list-style-type: none"> <li>・書の学習の心構え</li> <li>・基礎的な知識の確認</li> <li>・作品の制作</li> </ul>
2 漢字仮名交じりの書の学習(1) [ pp.10-15 ] 言葉や詩文を書く筆による表現の力 よりよい表現を求めて	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な言葉や詩文を題材に、漢字の力強さと仮名の優美さを調和させ、自分の意図に基づいて表現します。</li> <li>・用具や用材の違い、字形・文字の大きさ等の全体構成を工夫の効果を確認します。</li> </ul> <p>「漢字仮名交じりの書」とは、漢字仮名交じりの詩歌や文章・語句などを素材とした書です。</p>	自己評価シート  <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材の選択</li> <li>・構成の工夫</li> <li>・作品の制作</li> </ul> 作品の提出 ファイルの提出
3 楷書の学習 [ pp.16-31 ]  さまざまな楷書 厳正と温雅 重厚と軽快 方勢と円勢 小字の鑑賞と臨書	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の楷書の古典の学習を通して、毛筆によって表現された楷書のもつ多様な表現の可能性を確認します。</li> <li>・時代の特性や作者の個性について学び、代表的な楷書古典の表現の方法の特徴を確認しながら鑑賞します。</li> <li>・古典の技法を忠実にとらえて書くことをとおして、基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の技法を身に付けます。</li> </ul> <p>「楷書」とは、現在、活字として一般に用いられている書体です。</p>	自己評価シート  <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な背景の理解</li> <li>・作者の個性の理解</li> <li>・書における自己の個性の理解</li> <li>・作品の制作</li> </ul> 作品の提出 ファイルの提出
4 行書の学習 [ pp.32-51 ] 行書の特徴 蘭亭序の鑑賞と臨書 争坐位稿の鑑賞と臨書 風信帖の鑑賞と臨書	9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書が、実用性と芸術性という二つの側面を持つことを確認します。</li> <li>・時代の特性や作者の個性について学び、代表的な行書古典の表現の方法の特徴を確認しながら鑑賞します。</li> <li>・古典の技法を忠実にとらえて書くことをとおして、基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の技法を身に付けます。</li> </ul> <p>「行書」とは、中国の漢の時代に隸書を速書することから始まり、東晋の時代に芸術的に完成された書体です。</p>	自己評価シート  <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的な背景の理解</li> <li>・作者の個性の理解</li> <li>・書における自己の個性の理解</li> <li>・作品の制作</li> </ul> 作品の提出 ファイルの提出
定期テスト(前期)		(出題方針) ア. 書道の分野と用具についての知識や理解の定着をみます。 イ. 楷書古典の特徴に関する知識や理解の定着をみます ウ. 行書古典の特徴に関する知識や理解の定着をみます。 行書古典については、テストの2週間前に範囲を発表します。	
課題・提出物などの整理の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の制作過程及び提出、自己評価シートなどは、クリアファイルに整理していきます。</li> <li>・自己評価シートは、ふだんの授業の取り組みを振り返り、学習のねらいの達成に向けて、学習がうまく進んでいるかチェックするものです。</li> <li>・作品制作の途中経過(試書・中間まとめ・添削を受けたものなど)も記録としてファイルします。</li> <li>・单元ごとに、作品を提出します。この際、ファイルも同時に提出します。</li> </ul>			
成績の判断の基本となる項目 <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出作品 ・ファイル(自己評価シート、作品制作の途中経過の記録)</li> <li>・学習活動への参加の態度 ・定期テスト</li> </ul>			

# 学校設定科目「科学技術 A」シラバス

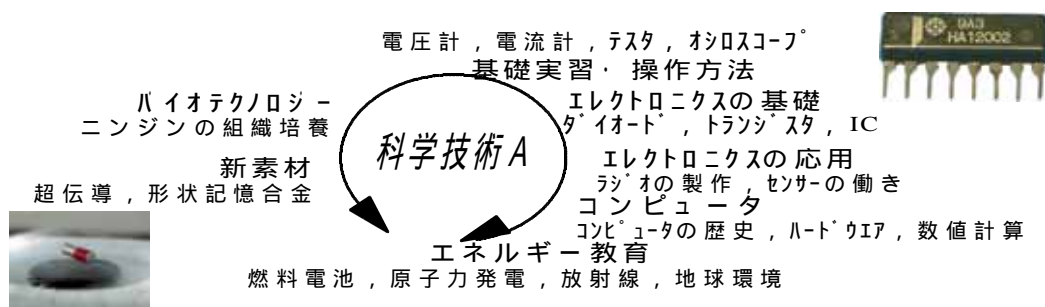
* この事例は、栃木県立宇都宮清陵高等学校が作成したものです。

## 1 担当者からのメッセージ

科学技術教育は本校の特色です。科学技術 A は独自に編集した教科書を利用して授業を行います。授業は2時間連続で、実験・観察さらに電子回路の工作実習などがあり、高校理科では通常学ぶことはできない、少し高度な内容も含まれています。しかし、色々な機器を利用して体験的に学習しますので決して難しい教科ではありません。

普通科 1 学年	単位 [ 2 ]	履修の区分 [ 必修・選択必修 ]
<h2>2 学習の目標と評価の観点</h2> <p>実験・実習や製作を通して体験的に学習し、先人の研究の足跡を知るとともに科学する心や態度を育成することをねらいとしています。高校生としては高度な内容も含まれていますが、先端技術は基礎的・基本的な研究の積み上げがいかに大切であるかを、実験や実習を通して実感できたかで評価します。</p>		

## 3 主な教材の紹介



### 新素材

酸化物超伝導体に液体窒素を注ぎ超伝導状態になると、上に乗せた磁石が1cm程度浮上します。

### バイオテクノロジー

エンジンを使った組織培養の実習を行います。1ヶ月後カルスの観察を行います。

### ラジオの製作

ラジオを製作します。技術は基礎の積み上げで完成する事を理解してもらいたいと考えて実施しています。

### エネルギー教育

燃料電池や太陽光発電など新しい発電方式を取り上げ、21世紀がかかえる環境問題をエネルギーの視点で実験を交えて体験的に学習します。また原子力発電についても正しい理解が得られるように学びます。

## 4 学び方についてのアドバイス

“習うより慣れる”、“調べるより観察し考える”が基本です。実験・実習は難しい理論よりも実際に触れて親しむことが大切です。楽しく学ぶことを重視しています。従って他教科のように家庭学習を要求することはありませんが、現代社会の色々な問題点などを新聞・テレビなどを通して興味関心を持っていれば、科学技術の中でその問題に対する答えのヒントが得られると思います。実験・実習プリントを中心に授業は展開していきます。学ぶポイントはプリントで整理できます。

## 5 評価や成績についての確認事項

授業は2時間連続で実験・実習を行いますので、毎回実験プリントを提出してもらいます。試験は期末試験のみです。試験の前には必ず練習問題のプリントを配付します。試験問題は練習問題から多くを出題します。評価は実習点が30%、試験の点数を70%程度の配分で計算します。また実習点は各クラス平均点が60点になるように実験プリントをもとに計算します。たとえば実習点が60点、試験が100点であった場合、評点は88点になります。

6 学習計画表

主な学習内容や課題などを示しました。  
 シラバスに示した学習の進捗や提出物をチェックしましょう。  
 確認テストや定期テストの期日が発表されたら記入しましょう。

第1学期

主な学習項目	月	学習課題(何を学ぶか)	学習のアドバイス	課題・提出物
学習を始めるに当たって		科学技術の学び方の説明。実験実習で注意する事。電気抵抗カラーコードの読み方を学びます。	ファイルを配付し以後多くのプリントを配るのできちんと整理しておくことが大切です。	なし
電子部品の働き		カラーコードの読み方、色々な抵抗、コンデンサーとはどんな部品か、コイルとは何かを学びます。	コンデンサーの働きを豆電球の明るさの変化で考えます。また実際の部品の読み取り方を学びます。	カラー抵抗の読み取りテストで評価。
電流計 電圧計	4	電流計・電圧計の使い方を実習で学びます。オームの法則も学びます。	抵抗、豆電球の電流、電圧特性を測定し、電気抵抗を計算します。オームの法則に従わない場合もあり実験で学びます。	実験プリントの提出。
テストの使い方		テストの使い方。各レンジでの目盛りの読み方を学びます。	万能測定器であるテストを使って電圧の測定を行い、電流は水の流れと同じように高い所から低いところへ流れることを実感します。	電位測定実習で3次元立体グラフを作成し評価。
オシロスコープの使い方	5	オシロスコープの原理を学び、取り扱い方、波形の観測の仕方、リサージュ波形から周波数比を測定する方法を学びます。	自分の声の波形を観察し、楽しく学習します。リサージュ波形そのものの美しさも楽しんでください。理工系への進学を考える人には大切な実習です。	リサージュ波形観察実験プリントで評価。
直流・交流の性質		交流に対する抵抗・コンデンサー・コイルの示す電気抵抗をパネルを使って学習します。	難しい内容ですが、周波数の変化はモニターしている音を聞いて、インピーダンスは豆電球の明るさで、定性的に理解すれば十分です。	
ハンダ付けのテクニック	6	ハンダ付けの原理、およびハンダ付けの技術を学びます。	電子回路製作のための技術をスズメッキ線を使った三角錐の製作をおして習得します。	三角錐のハンダ付けのできばえで評価。
レーザーと光通信		光の屈折、全反射の実験をレーザー光線を使い行います。光通信の原理を学びます。	屈折率の測定、透明なガラスが鏡のように光を反射する角度の測定を行います。班で一枚の実験レポートの提出となります。	光の屈折率、臨界角の実験プリントで評価。
バイオテクノロジー	7	バイオテクノロジーの基礎を学び、組織培養の実習を行います、カルスの観察を行います。	無菌箱の中でニンジンの組織培養の実習を行います。カルスができずにカビが生える失敗が多くあります。手を清潔にして実習してください。	カルスのスケッチで評価。



オシロスコープ



燃料電池実験装置



レーザー光線

第 ・ 学期

主な学習項目	月	学習課題(何を学ぶか)	学習のアドバイス	課題・提出物
太陽電池と太陽定数	9	太陽電池の動作原理を学び、太陽定数の測定を行い、太陽エネルギーの大きさを学びます。	エネルギー密度は小さいが、太陽から1m ² あたり1kWのエネルギーが降り注いでいることを覚えてほしい。	太陽定数測定及び太陽電池の特性測定プリントで評価。
新素材		形状記憶合金の変形温度の測定と酸化物超伝導体を使ったマイスナー効果の観察実験を行い、新素材について学びます。	液体窒素を使った実験です。色々な物を凍らせて楽しく遊ぶことも忘れずに。	
半導体ダイオード	10	半導体とは何か、半導体を使った素子にはどのような物があるかを学びます。	ダイオード・トランジスタの働きを実験で調べます。オシロスコープを使いますので再度操作方法を確認してください。	ダイオードの整流作用・平滑作用の実験プリントで評価。
トランジスタ1石ラジオの製作	11	AMラジオの仕組みを学び、実際にラジオを製作します。ユニバーサル基板に部品をさし、部品の足で配線し製作します。	ハンダ付けの技術が成功の鍵です。慎重に手順通りにハンダ付けすれば必ず成功します。	何局受信できたかで評価。
IC・デジタルサイコロの製作		ICの種類や形状、アナログ・デジタルとは何か、そして論理回路の働きを学びます。	ICを使って電子回路で0から9の数字が不規則に表示されるサイコロの製作を行います。集中力と根気が要求されます。	サイコロが完成できたかで評価。
コンピュータの歴史	12	エニアクからパソコンまでの歴史をビデオ映像なども使って学びます。基本的なハードウェアの構成なども学びます。	真空管、トランジスタ、IC、LSIそしてマイクロプロセッサの進化の流れを学び、パソコンが驚異的に進歩したことを理解してください。	授業プリントで評価。
パソコン実習	1	OSの進化をビデオなどで学びます。パソコンの基礎的な操作法をワープロ実習を通して学びます。	パソコンの操作法をパソコン室での実習で学びます。習うより慣れるが基本です。	簡単な文書を入力し評価。
放射線の人体への影響	2	放射線の性質、核分裂等を学び放射線の人体への影響も学びます。自然放射線の測定実習も行います。	放射線に対する理性的な判断ができるようになってもらいたい。何が危険であるかを理解し、感情的に怖がることなく学んでください。	自然放射線の測定実験で評価。
原子力発電の仕組み		原子力発電の仕組みを学びます。色々な発電方式と比較します。	エネルギー資源の問題と地球温暖化、核廃棄物などを客観的に考えてください。	授業プリントで評価。
新エネルギー	3	燃料電池実験装置を使い、水素を使って発電する燃料電池の特性を測定します。	最先端の発電方式で、家庭用小型発電装置の登場も間近です。単なる夢ではなく、なった発電方式のメリット・デメリットを冷静に判断してください。	燃料電池実験プリントで評価。
地球環境問題		家電品の普及率の変化や電力消費量の変化、エネルギーベストミックス等を学び家電品の待機電力の測定などを行い我々はこれからどうするかを考えます。	便利な生活が地球環境を破壊した事を実感してもらいたい。また工夫することで無駄を無くすることや、我慢することも必要なことを理解して下さい。	授業プリントで評価。
エネルギー教育レポート		原子力発電に対して反対・賛成派に分かれて討論します。	データをもとに客観的に判断して議論してください。	レポート終了後の作文で評価。

(注意) 現在エネルギー教育は研究中であり実施時期・内容など変更になる可能性あり。

## 総合的な学習の時間「地域研究」シラバス

わたしたちの生活は、地域の様々な産業、職業などによって支えられています。地域社会に目を向け、よりよい社会を築くためにはどうしたらよいかを、自分たちの問題としてとらえます。地域社会の様々な問題点を発見し、課題を設定し、解決策を探る学習をします。

主な活動は？

### 【課題解決学習の演習】

身近にある「モノ」について、疑問点や知りたいことを挙げます。同じ疑問を持つ人どうしてグループを作り、図書やインターネットなどで調べて、その成果を発表します。

例) 机、筆記具、消しゴム、本、自転車等

### 【地域社会に関する課題解決学習】

自分が関心を持ち、将来就いてみたいと思う職業から、現在の状況や課題を見出し、解決策を探ります。職業ごとにグループを作成し、課題研究を進めます。また、地域でその職業に従事する人々から話を聞いたりして課題研究を深めます。

例) 職業人による講話・インタビュー、演習等

### 【進路について考える】

自分の将来の生き方・在り方について考えます。

例) 「産業社会や職業と自己の関わりに関する研究」

進路とのかかわりは？

- ・地域社会の課題解決学習を通して、進路希望を明確にします。
- ・社会に目を向けた学習は、就職・進学面接やAO入試などの場に役立ちます。また、将来、社会人として生きていくための自覚を高めるきっかけとなります。
- ・情報の収集・整理、課題研究のまとめは、就職・進学の作文や小論文対策の基礎力づくりとして役立ちます。
- ・自分で考え、課題を追究し、まとめる学習のスタイルに慣れておくことは、将来、仕事をする際や、大学や専門学校での学問に取り組む際に大変役立ちます。

## 1 単位数・履修学年（学科・類型・コース）など

単位数	学年	学科・類型・コース	区分
1	1	科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修    選択必修    選択

## 2 主な教材

テキスト	副教材（購入が必要な教材）
産業社会と人間（本校自作テキスト）	進路ノート      社

## 3 学習のねらい

身近にある「モノ」について、課題を発見・設定し課題を解決していく技法や能力、情報を収集し整理する技法や能力、発表・表現する技能や能力を身に付けます。  
地域社会における今日の課題を発見・設定し、課題を解決していく学習を通して、現代的な課題について総合的に考える資質や能力を高めます。  
自分自身の生き方・在り方について考え、進路意識を高めます。

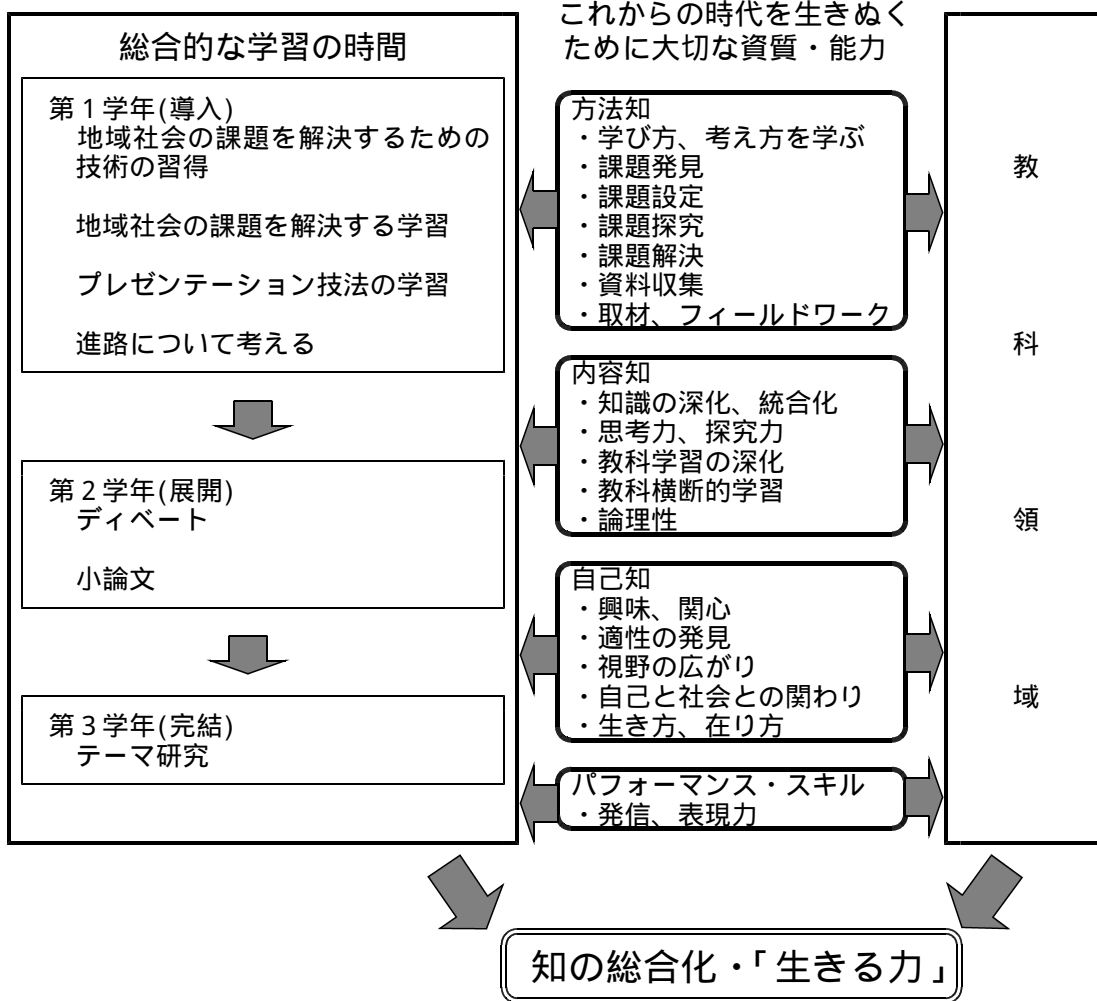
## 4 評価について

教科の学習のように数値化した成績は示しませんが、学習活動のまとめりにアドバイスカードを渡しますので学習を進める際の参考にしてください。  
ワークシートや研究レポートはファイルにまとめ、それぞれのまとめりに学習活動の振り返りを行い、自己評価します。グループごとの研究発表では、生徒どうしの相互評価も行います。

### 5 学習計画

		学習を進める際に重視してほしいこと			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある「モノ」について、疑問点を見つけて調べる。</li> <li>・地域社会や職業について、関心や課題意識をもち、課題追究のためのテーマを探す。</li> <li>・友だちどうしてアイデアや意見を出し合って、課題に取り組む。</li> <li>・将来の生き方・在り方について考える。</li> <li>・学習の過程で気づいたことや学んだことを進路選択や決定に生かす。</li> </ul>			
学期	月	学習の内容・学習活動 学習活動のテーマ (ワークシート、研究レポート)	学習の場面・方法 (モノ・情報・人・社会)	学習活動のアドバイス	
1 学期	4	<b>【学び方のガイダンス】</b> (1) オリエンテーション ・「課題発見・解決の方法」 (ワークシート1) <b>【課題解決学習の演習】</b> (2) 身近な「モノ」に関する疑問を解決する ・演習「ブレインストーミングによる話し合い、KJ法による思考の整理」 (ワークシート2)	ガイダンス(正副担任)  ← <b>身近なモノ</b> (モノ) 指導(正副担任)	身近な「モノ」に関する疑問点を見つけ、班毎に課題を設定します。自由に意見を述べ合います。話し合いの手法を教科学習や社会生活に活用するよう考えます。資料の収集・整理の仕方を学びます。研究成果をわかりやすく表現し、伝える工夫をします。他者の発表の良い点を学びます。 (アドバイスカード1 生徒)	
	5	・疑問から課題発見・設定へ (ワークシート3)	← <b>インターネット・図書資料</b> (情)		
	6	・インターネットによる資料検索 ・図書資料検索(ワークシート4) ・資料の整理(ワークシート5) ・研究のまとめ(ワークシート6) (自己評価カード1)	← <b>インターネット・図書資料</b> (情)		
	7	・発表(自己・相互評価カード2)	司会(生徒) 進行(担任)		
	9	<b>【地域社会に関する課題解決学習】</b> (3) オリエンテーション ・「課題発見・解決の方法」 (ワークシート1)	ガイダンス(正副担任)		1学期に学んだ様々な手法を今後の学習に生かします。 例)問題点を考え、打開策を研究する。 例)問題点について討議する。  課題を多角的に把握します。  学校外に出向いて広く情報を収集します。
	10	(4) 地域社会の問題点を学ぶ ・講話「 <b>市の街興し</b> 」 (ワークシート2)	← <b>市の街興し担当者</b> (人) 指導(正副担任)		
	11	(5) 市の問題点を解決する ・教育、福祉、政治・経済、情報、科学技術、医療、環境、国際、観光、交通等の分野別に班分けして、研究する。 (ワークシート3)	← <b>インターネット・図書資料</b> (情)		
12	・問題点の整理、解決策の検討 (ワークシート4)	← <b>インターネット・図書資料</b> (社会)			
1	・調査、情報収集 (ワークシート5)	← <b>インターネット・図書資料</b> (社会)			
3 学期	2	・調査内容の整理、解決策の検討 (ワークシート6)	司会(生徒) 進行(担任)	プレゼンテーションソフトの効果的な使い方や発表の技法を学びます。他者の発表の良い点を学びます。 (アドバイスカード2 生徒)	
	3	・研究のまとめ (ワークシート7) (自己評価カード3)	ガイダンス(正副担任)		
	3	<b>【進路について考える】</b> (6) 社会人に学ぶ ・講話「各業界で働く職業人」 (ワークシート1)	← <b>OB、保護者、企業人</b> (人) 指導(正副担任)		講話や実習で気づいたことをメモにまとめます。これまでの学習を振り返り、進路決定に向けて夢や希望を表現したり、達成に向けたプランを作成したりします。 (アドバイスカード3 生徒)
		(7) 職業研究「産業社会や職業と自己の関わりに関する研究」 (ワークシート2) (自己評価カード6)	指導(正副担任)		

「総合的な学習の時間」で身に付けたい力（教科との関連）



総合的な学習の時間で身に付けたい資質・能力について	
区分	具体例
方法知	学び方 考え方 調べたいことの見つけ方 テーマの決め方 調べ方 データや資料を集め方 インタビューの仕方 校外や野外での調査の方法 調べたことのまとめ方
内容知	新たに知識を身に付ける いくつかの知識を関連付ける 根拠をもとに考えたことを示す 教科で学んだことの意味が深まる 教科で学んだことを相互に関連付ける 根拠や自分の考えをもとに結論を導く
自己知	興味や関心のあることを挙げる 自分に合った考えや方法を見つける 今までとは違った考えや方法に気付く 自分が社会と関わっている事例を挙げる 自分の生き方について述べる 自分の生き方のモデルについて述べる
パフォーマンス・スキル	自分の考えや意見を工夫し表現する